

代表質問

鳥取県議会自由民主党



選挙区 米子市
松田 正 議員

新たな地方創生の礎づくり

問 コロナ禍の影響を受けた県政運営も任期の折り返し点だが、知事の選挙公約の達成状況を伺う。ポストコロナに向けた新たな地方創生の礎づくりも必要だが、任期後半の県政運営にどう臨むのか。

答 公約は9割近く達成しているが、コロナ禍で国際・観光などは目標を置き直す必要がある。コロナ禍で地方分散型が見直されており、そうした観点で政策の立て直しを図っていく必要がある。

新型コロナウイルス対策

問 限られた医療資源の中で、進化し続ける新型コロナと闘い、県民の命をいかに守っていくのか。

答 早期検査・早期入院・早期治

療という鳥取方式の徹底が第三。四波に有効だったので、国の新型コロナ感染症対策分科会でも必要性を申し上げたい。鳥取方式と科学的手法も駆使しデルタ株に備えたい。

憲法改正への認識

問 新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態条項の追加などの議論があるが、緊急事態対応のための憲法改正について知事の認識を伺う。

答 諸外国の新型コロナウイルス対応が非常事態の法制を考えるきっかけとなっており、憲法における基本的人権の調整規定の必要性は議論に値すると考えている。

サイクルツーリズム推進

問 ナショナルサイクルルート（※1）の指定に向けてどう取り組むのか。

答 例えば60キロ毎の宿の整備などのハードルを乗り越えるため、地元として体制を組んでいかなければならず、まずは運動を起こしていく必要がある。

問 ナショナルサイクルルート指

定に向けた取組などサイクルリングを活用した鳥取発の施策展開に向けた専門部署を設けるべき。

答 安全対策も含めた総合統括的な課内の推進チームなど、組織対応を検討したい。

今後の国際交流の方向性

問 ポストコロナの国際交流の方向性として、台湾との関係を強化するよう展開を考えてはどうか。

答 コロナ後に向けてこれまでの御縁を続けて、チャーター便からいずれば定期航空路開設も目標とするなど、台湾を今後の核として交流拡大を図っていきたい。

子ども庁創設への期待

問 政府において子ども庁創設の検討が進められているが、子育て王国の更なる発展に向けてどのような期待を持たれているのか。

答 施策や人材の一元化により、縦割りを打破し、OECD諸国と比べても平均的な子育て施策が成立することが重要であり、議論は大いに歓迎したい。

ウッドショックへの対応

問 ウッドショックが続く中、今後、県産木材にシフトしていくのであれば、大断面集成材（※2）等の生産も含めて検討していくべ

きでは。

答 山側にとって供給を増やす千載一遇のチャンスであり、国の森林・林業基本計画を横にらみしながら、戦略を練った上で今後の事業展開の応援をしていきたい。

障がい者スポーツの振興

問 県東部にある障がい者スポーツ拠点施設「ノバリア」のサテライト機能の中西部への横展開など、障がい者スポーツが全県的に根付くようどう取り組むのか。

答 人材育成が重要。現在障がい者スポーツを支えるガイド人材が二百人おり、更に認定コーチを四五〇人つくるなどの運動を進めている。中西部でもサテライトをつくり、障がい者スポーツの振興を進めていきたい。

流域治水の推進

問 米子市淀江の宇田川など県管理の二級河川では、整備計画について地元の理解があまり進んでいないところもあるようだが、流域治水プロジェクトをどう進めていくのか。

答 宇田川は度重ねて被災しており、平成23年には輪中堤（※3）を地元と協議したが反対も多く凍結した。この機会に丁寧な話し合いをしながら対策を考えていきたい。

（※1） ナショナルサイクルルート：国が指定する一定水準を満たしたサイクリングルート。

（※2） 大断面集成材：大型木造施設などに用いられる断面の大きな構造用集成材。

（※3） 輪中堤（わじゅうてい）：ある特定の区域を洪水の氾濫から守るために、その周囲を囲むようにつくられた堤防。